

# 6 葬儀に関する知識について

## (1) 葬儀について知りたいこと

Q5 葬儀について知りたいことは

なんですか。3つ選んでください。

- ①葬儀費用について
- ②準備しておくべきこと
- ③心構え
- ④葬儀の依頼先について
- ⑤葬儀の手順など一般的な知識
- ⑥「生前予約」について
- ⑦いろいろな葬儀のスタイル(仕方)について
- ⑧家族や係累がない場合の方法について
- ⑨寺院などに関すること
- ⑩その他

### [回答]

葬儀について知りたいことは全体では「葬儀費用について」52・7%、「準備しておくべきこと」52・5%、次いで「いろいろな葬儀のスタイル(仕方)について」「葬儀の手順など一般的な知識」が30%前後して続いている。エンディング、終活などの言葉に象徴されるように、自分ることは自分で準備しておくべきこと

と考えていることが伺われる。  
「葬儀費用について知りたい」の割合が高いのは、北海道・中国・四国などの地区では6割を超えている。

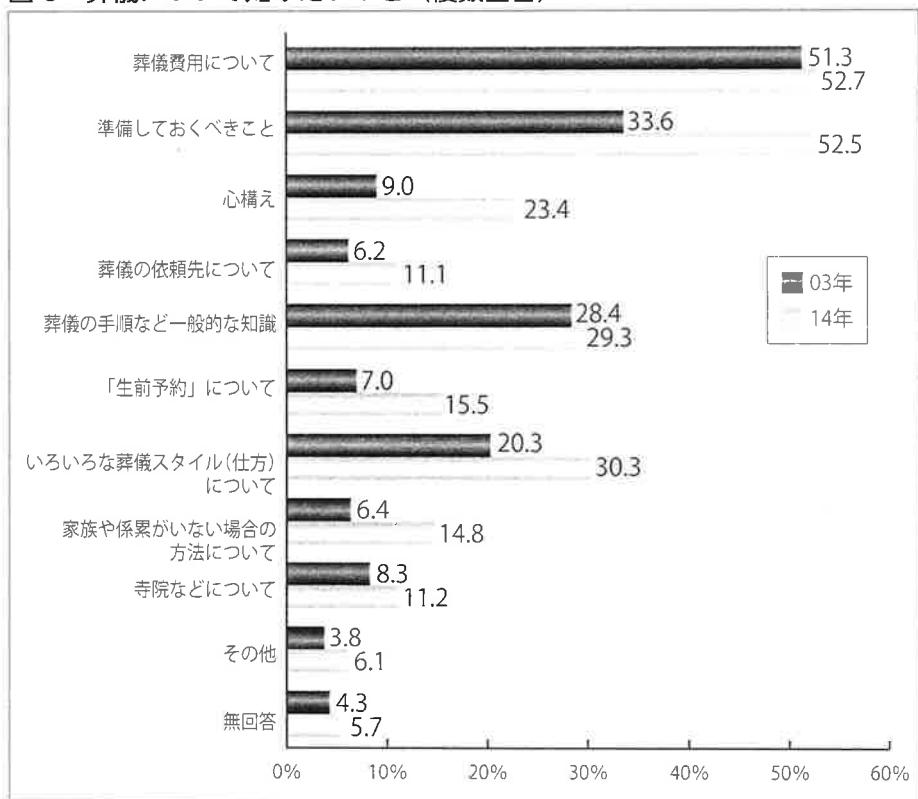
第9回の「葬儀費用について」は68・4%であったが、費用についての情報が各方面に話題にされた結果ではないかと考えられる。その上で、自分の準備しておくべきことは何かと、具体的に考えるようになつてきただといえるのではなかろうか。

### [分析]

設問の形式を合わせるため、03年と14年の調査結果を比較します。

### (図6)

図6 葬儀について知りたいこと（複数回答）



て」も03年の20・3%から10ポイント増加して30・3%となりました。生前予約についても03年の7%か

ら8・5ポイント増加して15・5%となっています。

注意すべきは「家族や係累がない場合の方法について」も03年の20・3%から10ポイント増加して30・3%となりました。生前予約についても03年の7%から8・5ポイント増加して15・5%となっています。

# 葬儀に関する知識について

い場合の方法について』で、03年の

6・4%から8・4ポイント増加し、  
14・8%となつたことです。単独世

帯の増加という家族の変容が目に見

える形で葬儀に影響するようになり

ました。葬儀のみならず、自分の終末期や

死後についての関心が増加していま  
す。

「インターネットで調べる」は全体  
では約3割で、近畿地区は5割、関  
東B地区は4割を超えていた。

第9回は1位は「親族に聞く」で  
47・5%であったが、今回は葬儀社  
が第1位になつている。最近の葬儀  
のやり方や考え方などは、親族より  
も実務的な葬儀社に聞くほうが多い

と考える人が多くなつていると考え  
られる。葬儀社の相談体制が整つて  
きているといわれることの表れでは  
ないかと考えられる。

## (2) 葬儀についての 相談先

Q6 葬儀について知りたいことや  
相談したいことがある場合、どうし  
ますか。3つ選んでください。

- ①自治体などの消費者相談窓口で聞く
- ②町内会・自治会などの役員に聞  
く
- ③親族に聞く
- ④知人・友人に聞く
- ⑤関係の書籍を買う
- ⑥葬儀社に聞く
- ⑦寺・神社・教会に聞く
- ⑧インターネットで調べる
- ⑨新しい葬儀などをPRしている団体  
に聞く
- ⑩その他

### 【分析】

03年と14年の調査結果で比較しま  
す。(図7)

相談先として圧倒的に多いのは「葬  
儀社」の60・4%。03年でもトップ  
であつたが33・3%から27・1ポイ  
ントも増加しました。

第2位は「親族」28・8%から  
22・7ポイント増加して51・5%と  
なっています。これは「親戚と相談  
する」というよりも「家族内で相談  
する」ということを示しているよう  
に思われます。

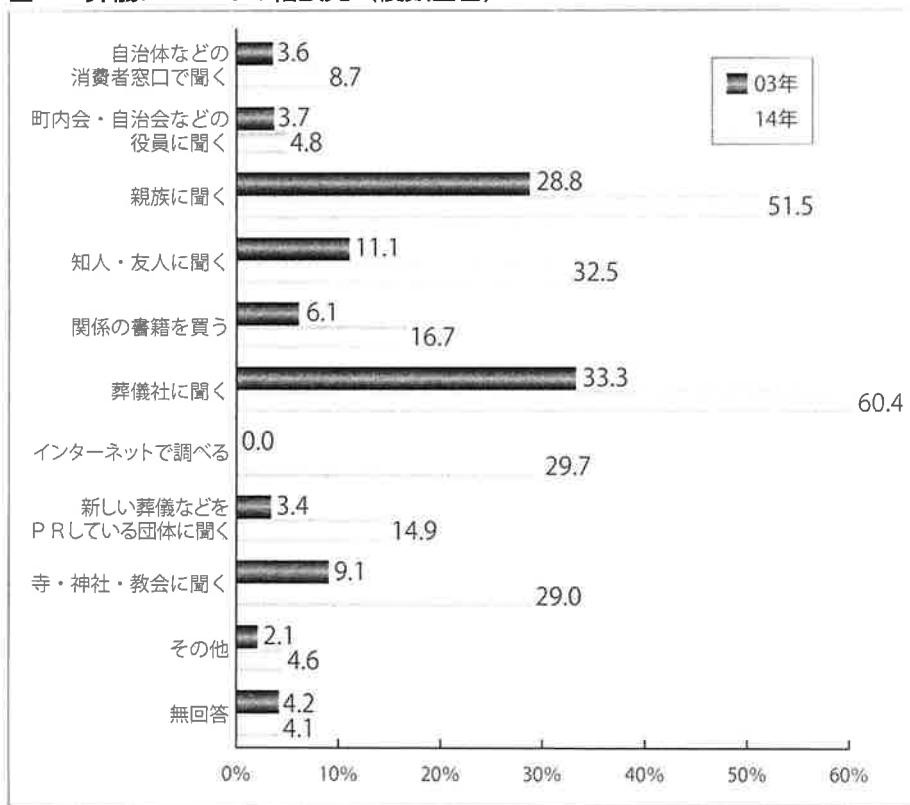
「回答」

葬儀の相談先については、「葬儀  
社に聞く」60・4%、次いで「親族  
に聞く」51・5%、「知人・友人に聞  
く」「インターネットで調べる」「寺  
・神社・教会に聞く」がほぼ30%前  
後となつていています。

セカンドオピニオンとなつていて  
いるように思っています。

「知人・友人」というのは「近頃に  
葬儀を体験した人」ということで、  
体験者からの口コミ、評判というの  
が影響力を強めていることを示して  
いるように思います。

図7 葬儀についての相談先(複数回答)



葬儀の相談先については、「葬儀  
社に聞く」60・4%、次いで「親族  
に聞く」51・5%、「知人・友人に聞  
く」「インターネットで調べる」「寺  
・神社・教会に聞く」がほぼ30%前  
後となつていています。

「回答」

葬儀の相談先については、「葬儀  
社に聞く」60・4%、次いで「親族  
に聞く」51・5%、「知人・友人に聞  
く」「インターネットで調べる」「寺  
・神社・教会に聞く」がほぼ30%前  
後となつていています。これは「親戚と相談  
する」というよりも「家族内で相談  
する」ということを示しているよう  
に思われます。

「知人・友人」というのは「近頃に  
葬儀を体験した人」ということで、  
体験者からの口コミ、評判というの  
が影響力を強めていることを示して  
いるように思います。

健闘しているのは「寺・神社・教  
会」です。他に相談できない時に頼  
るのでしようが、頼られてきちんと  
それに対応できるかが問われている

でしょう。

葬儀等についてのNPOや市民団体も03年ではわずか3・4%にすぎませんでしたが、14年には14・9%まで伸長しました。ここも信頼性という観点では玉石混交。良貨が悪貨を駆逐するか、その逆になるか、今後が注目されます。

### (3)「家族葬」についての苦心

Q7 葬儀社によると、「家族葬」を望む人が増えているそうです。この「家族葬」についてどんなイメージが浮かびますか。1つ選んでください。

- ①小規模な葬儀
- ②近しい身内だけで行う葬儀
- ③簡素・質素な葬儀
- ④費用がかからない葬儀
- ⑤静かに故人を送る葬儀
- ⑥祭壇がない葬儀
- ⑦花に囲まれた葬儀
- ⑧その他

て認識されているといえるのではないだろうか。

第9回も同じ順位になつていて。

#### 【分析】

現在「家族葬」が人気ですが、この用語は1995年頃に東京の山の手地区で使い始められたもので、新聞報道されるや一気に人気となり、今や全国化しています。

歴史的には、閉じられた空間で近親者のみによって行われた「密葬」の代わりに登場しました。「密葬」の閉鎖的イメージと比べて「近親者で温かく送る」というプラスイメージが評価されて支持が拡大しました。

1位の「近しい身内だけで」とい

うが、3位以下は変動する可能性があります。

東京周辺では2~3年前には小型化して50~60人台の葬儀が多かつたが、13年以降は30~40人の葬儀が多

語)、小型化(会葬者数の減少)を象徴する用語として定着してきました。

本調査は、消費者が「家族葬」をどういう意味合いで理解しているかを調べている。「近しい身内だけで行う葬儀」が64・5%で、次いで「静かに故人を送る葬儀」14・8%と大きな差があり、「近しい身内だけ」で、「静かに故人を送る」葬儀として認識されているといえるのではないだろうか。

回答として示されたように、「②近しい身内だけで行う葬儀」というイメージが圧倒的で64・5%、続けて「⑤静かに故人を送る葬儀」14・

うのも、「家族だけ」「家族、きょうだい」の範囲、「家族・親族・近しい友人」といったニュアンスの差はあります。

家族葬支持の拡大の背景には故人の高齢化があることは広く指摘されています。人口動態統計(12年)によれば、80歳以上の死亡者数が全体の死者数の58%を超えるまでになります。

**2014年度  
葬祭ディレクター試験受験者必携!**

**技術審査 模擬問題集**

学科・実技を詳しく解説

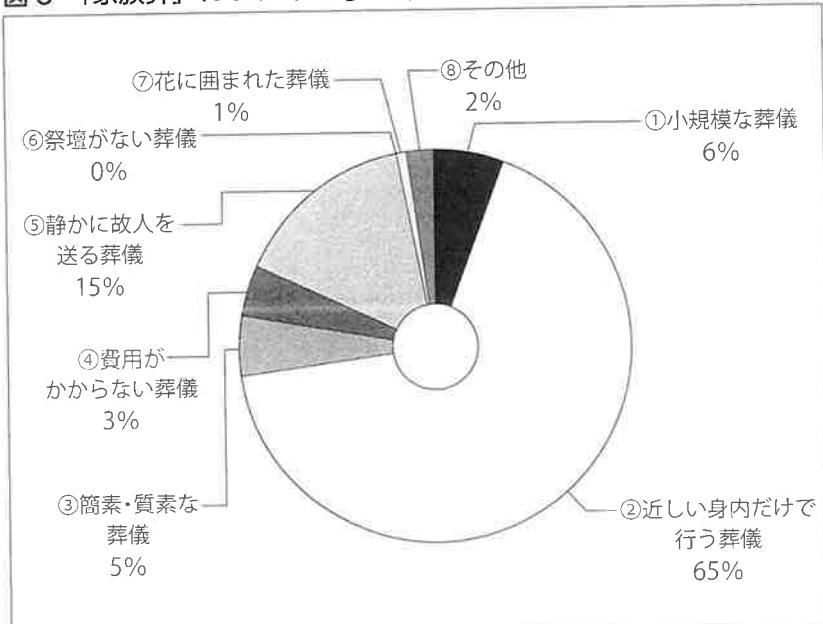
お申し込みは  
**表現文化社**

TEL.03-3341-4301 FAX.03-3341-4302

「家族葬」は、95年以降の葬儀の個人化(「社会的儀礼」)に対抗する用

# 葬儀に関する知識について

図8 「家族葬」についての考え方(2014年)



くなるなど、小型化が急速に進んでいることが報告されています。

11年の経産省調査によると、全国的には、実態としては100人未満の葬儀が3分の2を超えるまでになっています。

自由記述からいくつか例示します。

おそらく代表的な意見は、「人の死が社会的に大きな影響がある場合以外は、心から故人の死を悼む人たちで静かに送りたいし送られたいと

思っています」「世間にとらわれず、本当に付き合いのあつた大切な人に集まつてしまい」と思つ。

家族葬が高度経済成長期からバブル期に至る異常とも言うべき社会儀礼化への反発という意味もあります。しかし、家族葬を「家族だけで」とあまり限定してしまうと、故人とほんとうに親しかった人々が排除されがちです。

家族の変容から、人間関係で血縁がもつ意味が相対的に低下している、という部分もあるので、閉鎖度が高まる、故人と最も親しい人まで排除される「家族の暴力」と思われる事例も仕方がない事例も散見されるようになっています。

全体では「故人の希望なら仕がない」が38・9%、次いで「あまりにも味気ない」38・6%で、ほぼ同じ率である。「できれば自分はそうしてほしい」25・3%が続いている。

地区により「故人の希望なら仕がない」と「あまりにも味気ない」のどちらかが1位になつていています。

故人の思いを優先したいとする一方で、それでいいのかという味気なさを感じるという思いが、直葬という葬儀形式をよくあらわしているのではなかろうか。

## (4)「直葬」という形式についての考え方

- Q8 直葬(ちよくそう)とは、通常夜や告別式を行わず、火葬のみを行う形式を指します。このような形式をどう思いますか。該当するものをすべて選んでください。
- ①できれば自分はそうしてほしい
- ②あまりにも味気ない
- ③葬儀費用がかからないのがよい
- ④親類・縁者がから非難されそう
- ⑤のちのちめ

【分析】 「直葬」が話題になつたのは2000年頃、家族葬出現の95年から遅れること約5年です。

複数回答なので、どれがどれと関係しているかがわかりません。ただし「できれば自分はそうしてほしい」が25・3%と4人に1人が回答して

なんどうなことがありそう

(6)故人の希望なら仕がない (7)その他

### 【回答】

通夜や告別式を行わず、火葬のみを行う形式の言葉としての「直葬」についての考え方を、今回のアンケートで初めて設問し複数回答で尋ねてみた。

通夜や告別式を行わず、火葬のみを行う形式の言葉としての「直葬」についての考え方を、今回のアンケートで初めて設問し複数回答で尋ねてみた。

いるほど直葬人気は高いです。03年の調査では、「自分自身の望ましい葬儀のかたち」では「葬儀も墓も不要と思う」と回答したのがわずか2・8%ですから（設問は「葬儀も墓も」となっているので少し異なりますが）、急激に支持が増加していることがわかります。（図9）

仮に自分の意見は別として、「故人の希望なら仕方がない」とする回答は38・9%と約4割になっています。

11年経産省調査では、60代、70歳以上に簡素化傾向が強いので、高齢者が直葬を希望すれば半分近くが実現性が高いことを意味しています。現在、直葬は全国で約1割、首都圏では約2割となっていますが、今後は家族葬に取って替わることはなしにしろ、首都圏3割、全国2割といふ状況はすぐ目の前にあると言えそうです。現実には「直葬」は「望む」人たちだけではなく、葬り手が不在というケースが実際には多い、というのが実情です。

ただし、直葬には反対の意見も根強いものがあります。「あまりにも味気ない」という意見は38・6%を占めています。

家族葬に対する「簡素に」といふ意見もありますが、「より温かく送りたい」と弔うことへの熱心さか

らくる選択があります。しかし、直葬では弔うということはありません。もあり、儀礼をすることが弔うことには必ずしなっていらない、という批判もあるでしょう。

自由記述から直葬へ賛成と反対とを分けて例示してみます。

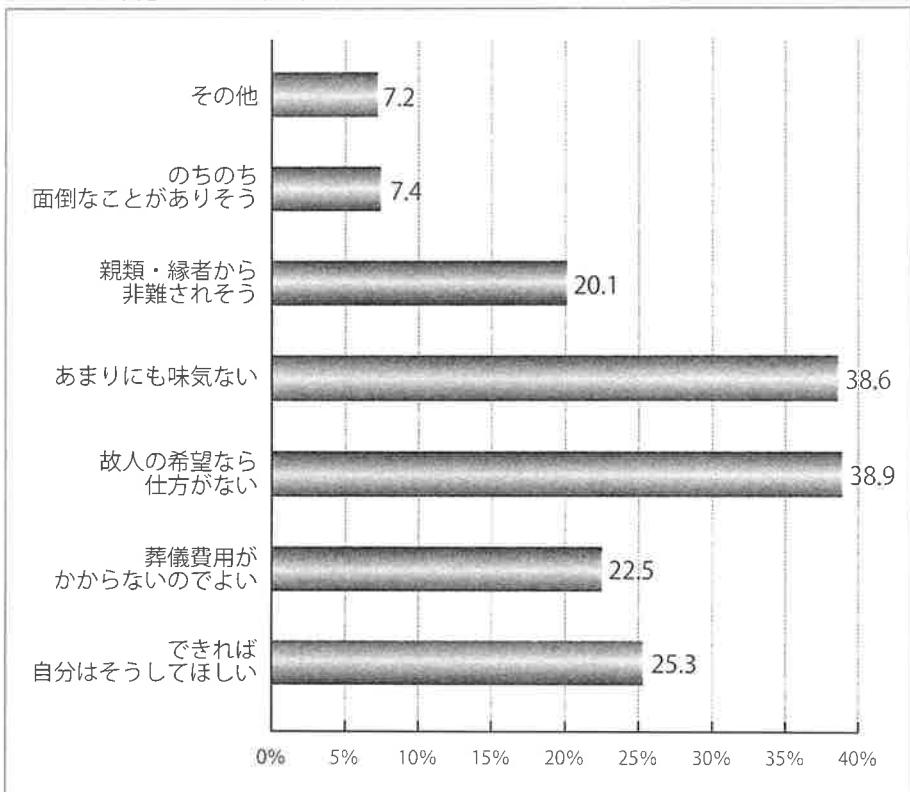
（直葬を肯定）

- ・自分の時にそうしてほしいから。
- ・係累がない場合および故人の希望であればよろしい。
- ・夫婦のどちらかが残つていれば不向きですが、片方だけであれば、社会的なこともなく来ていただく人がいない時は合理的でいいと思います。
- ・そういうことは仕方がない。
- ・遠くに暮らす子どもたちに時間的負担をかけたくないでの、葬儀費用は生前渡しとする。
- ・通夜葬儀は必要な人だけが行えればよい。
- ・お金がない場合いちばん合理的な方法ではないか。
- ・遺族の身体的負担も少ない。
- ・親族がいないうときは直葬しかないので。

（直葬を否定）

- ・お別れする気持ちの時間がないでの、心残り。
- ・家族・友人との別れがないとさびしい。
- ・通夜や告別式がないため、弔問の人が個別に来訪し、残った手順をとりたい。
- ・残る人の気持ちも考えて、葬

図9 「直葬」という形式についての考え方（2014年。複数回答）



儀は行うほうがよい。

・葬儀を行わないことは今までお世話になった方々への不作法失礼であり、後々問題が発生する。また、本人がほんとうに成仏できるか？

・故人にとつてもさびしいことだと思う。

・故人への別れの意を表すと共に、遺族の悲しみのプロセスを葬儀でキチンと経たほうが後々よいと思う。

## ⑤自然葬(散骨)や樹木葬について

Q9 自然葬(散骨)や樹木葬などを選択することについてどう思いますか。該当するものをすべて選んでください。

- ①できれば自分はそうしたい
- ②故人の希望なら、そうしたい
- ③法律的問題がなければそうしたい
- ④自分は普通の墓地に葬ってほしい
- ⑤一部の遺灰なら、好きだったところにまくのはよい
- ⑥わからない
- ⑦その他

【回答】

自然葬は墓地ではない場所への散骨であり、樹木葬の多くは墓地とし

て許可された土地での埋葬として違はないはあるが、これらの埋葬方法について、どのように考えるかを尋ねた。

「故人の希望なら、そうする」48・3%、次いで「自分は普通の墓地に葬ってほしい」36・8%、「法律的に問題がなければそうしたい」と「できれば自分はそうしたい」が約20%強で続いている。

「故人の希望なら、そうする」が5割を超えている地区は、北海道・関東B・中部B・近畿・九州である。「故人の希望なら、そうする」の項目は、第9回39・7%で第1位で、次いで「自分は普通の墓地に葬ってほしい」となっている。

### 【分析】

まず設問に問題があります。自然志向の葬法という点では共通性はあるでしょうが、散骨(自然葬)と樹

木葬(最近では「樹林葬」もあります)は、法律的議論では区別されるべきもので、一緒の設問は間違っています。(もつとも一般の理解では「自然葬」と「樹木葬」があまり区別されていないことは事実です。)

樹木葬は、墓地、埋葬等に関する法律(以下、墓埋法)に基づき自治体から許可を得た墓地内で行われる

問題はすでに、クリアされています。日本では、99年に岩手県臨済宗知勝院(現在)が行つたのが最初です。

散骨(自然葬)は、墓地以外の海や山に遺骨(細かく砕かれた)を撒くことです。こちらは刑法の遺骨遺棄罪との関係が問題とされました。

現在では大方の法曹界の見解では「葬送を目的として、相当の節度(遺骨を原型がわからなくなるまで細かく砕き、近隣で風評被害等をもたらさない場所で撒く)をもつて行われるならば違法ではないだろう」とされています。また、墓埋法との関係では、管轄する厚生労働省が、「墓埋法は散骨(自然葬)を対象としている(「合法」と言わずに)、と墓埋法との法律関係はない」と声明しています。日本では、91年に葬送の自由をすすめる会が相模灘で行ったのが最初です。

以上の議論は専門的であり、一般の人には難解ですので、法律論を問うことは無理です。

大きく言えば、「樹木葬は、法律的に許可された葬法」で、「散骨(自然葬)は、目的と方法が適切であるならば違法ではないだろうと解釈されている葬法」です。

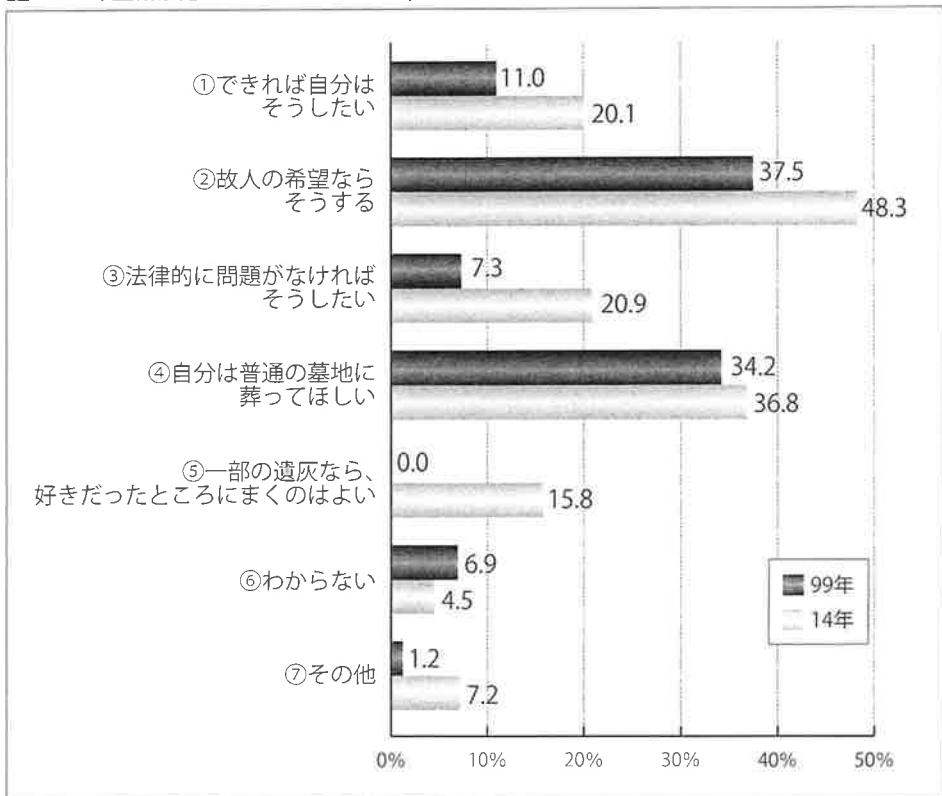
「樹木葬」で法律問題になるのは、

「樹木葬(樹林葬)」が樹木葬として許



本設問は過去に「自然葬について」と題して行われた調査と同一なので、ここではあくまで「散骨(自然葬)についての問い合わせとして理解して99年

図10 「自然葬」についての考え方(複数回答)



時間が経過し、自然葬に対する認知も進み、また設問が樹木葬も含んだことから、自然葬への関心が明らかに増加しています。

複数回答のため、これは正確ではないですが、「できれば自分はそうしたい」と「法律的に問題がなければそうしたい」と「故人の希望ならそうしたい」と「法律的に問題がなければそうしたい」の合計は、99年にはばそくしたい」の合計は、99年には

18・3%であったのに対し、14年に41%になっています。しかし、他の調査を参考すると法律的問題がクリアになつたとしても自然葬（樹木葬を加えても）に対しても「選択したい」とする割合は約3割程度です。

「故人の希望ならそうする」はほとんど変化がありません。しかし、他の調査と似た結果になります。

「普通の墓地（99年調査では「墓地」）に葬ってほしい」は34・2%、36・8%と変化が見られません。（図10）11年の経産省調査では、既存の墓地または納骨堂に埋蔵（收藏）したのは約7割で、新しく墓地等を手当してたのは約3割です。新しく手当してたうちの約3分の1が、永代供養墓（かづきはう、合葬墓、合葬式墓地）、散骨（自

然葬）、樹木葬（樹林葬を含む）となります。

Q10 核家族や高齢化など社会環境の変化に伴い、今後の葬儀のあり方をどのようにすべきと考えますか。該当するものをすべて選んでください。

①葬儀は順送りなので、残る家族にすべてまかせてよい ②地域のつながりは大事にすべきなので、しきたり

**消費者サービスのご提案**

# 《Booklet》1 2 大好評

表現文化社が提案する消費者のためのブックレットです。消費者の視点でわかりやすく、正確な情報を提供します。消費者と葬儀社をつなぐ、コミュニケーションツールです。

各B6判 24ページ 本体152円

価格表				
冊 数	購入単位	本 体	送 料	名入れ料(税別)
100冊以上	100冊	133円	実 費	名入れなし
500冊以上	100冊	114円	無 料	30,000円
1,000冊以上	100冊	95円	無 料	30,000円

\*3,000冊以上はご相談ください。\*名入れは会社名等を表4に印刷するものです。

●お問い合わせは 表現文化社 〒160-0016 東京都新宿区浜町10 甲山ビル2階  
TEL:03-3341-4301 FAX:03-3341-4302

りに従うのがよい ③簡素な葬儀や

派手な葬儀など、いろいろあつてよ

い ④形式やしきたりなどにこだわ

らない自由な葬儀があつてよい ⑤

家族だけの葬儀でよい ⑥葬儀も墓

も不要と思う ⑦故人や遺族の意見

を反映した葬儀になればよい ⑧そ

の他

りに従うのがよい ③簡素な葬儀や

派手な葬儀など、いろいろあつてよ

い ④形式やしきたりなどにこだわ

らない自由な葬儀があつてよい ⑤

家族だけの葬儀でよい ⑥葬儀も墓

も不要と思う ⑦故人や遺族の意見

を反映した葬儀になればよい ⑧そ

の他

### 【回答】

高齢化が一層進むと言われる社会環境の中で、今後、葬儀のあり方はどのようになつていつたらよいと考えるのかを尋ねた。

「故人や遺族の意見を反映した葬儀になればよい」58・3%、次いで「形式やしきたりなどにこだわらない自由な葬儀があつてよい」54・8%、「家族だけの葬儀でよい」47・7%である。

全体では26%強の「葬儀は順次りなもので、残る家族にすべて任せてもよい」は、四国地区は51・9%である。

おおむね、故人の遺志の重視と自由多様な葬儀のかたちを認めたい

といつて答えた人が感じられる。

第9回は、形式やしきたりなど

わらわい自由な葬儀、「家族だけの葬儀」、「簡単・派手なといふいふ者、てよい」の順であった。

### 【分析】

03年と14年とのデータを比較しようとしましたが、一部大幅に設問文が変更されているため（前の設問文に問題があつた点もあり）、純粹な比較は困難です。

その中で「残る家族に任せたい」とする考えは03年22・2%、14年26・5%と全体の4分の1程度はいることがわかります。（図11）

日本の死者祭祀は、少なくとも明治の近代以降、子（継承者）が親の祭祀を行うことで、その子の祭祀はその次の代が行う、という「安心保障体制」下にありました。その流れ

で言えば、自分の死後の祭祀を次世代に任せるというは正統な考え方です。しかし、1960年代以降の都市化、核家族化、さらにそれが壊れて家庭解体といふ時代を迎えると、この

安否保障体制から離れる人が多く、出るうじなりました。

消費者協会の「回数」、「日」、「月」

たね、故人の遺志の重視と自由多様な葬儀のかたちを認めたい

といつて答えた人が感じられる。

おおむね、故人の遺志の重視と自由多様な葬儀のかたちを認めたい

といつて答えた人が感じられる。

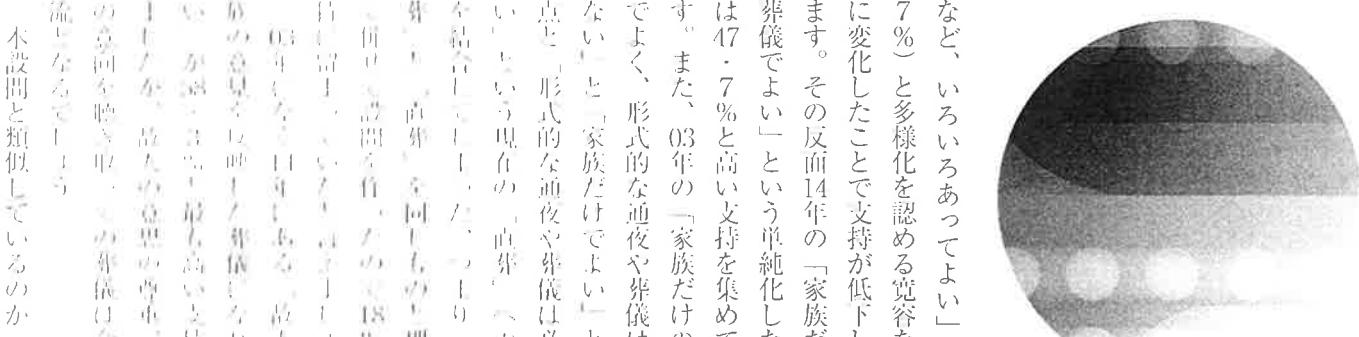
おおむね、故人の遺志の重視と自由多様な葬儀のかたちを認めたい

といつて答えた人が感じられる。

おおむね、故人の遺志の重視と自由多様な葬儀のかたちを認めたい

といつて答えた人が感じられる。

おおむね、故人の遺志の重視と自由多様な葬儀のかたちを認めたい



など、いろいろあつてよい」（30・7%）と多様化を認める寛容な設問

に変化したことで支持が低下しています。その反面14年の「家族だけの葬儀でよい」という単純化した設問

は47・7%と高い支持を集めています。また、03年の「家族だけの葬儀でよく、形式的な通夜や葬儀は必要

ない」と「家族だけでよい」という点と「形式的な通夜や葬儀は必要な」という現在の「直葬」への評価

は、全く逆の結果となりました。

「直葬」を何とも理解し

・順送りかどうかわからない。  
・家族がいないとか独り身に優しいサービスのある葬儀があるらしい。生前に選んでおけると自分もまた残された者も心かん詰まるがでとてもよいのではないかと思ふ。

述から例示します。

・私は生前も子どもたちに世話をかけてしまうと思うので、死後は残された人々をわざわすなども不要にしたい。直葬で十分だと思っています。

・預け置きの葬儀でなければよ

く。預け置きの葬儀でなければよ

望ましい葬儀のかたち」ですが、そ

このトップは、「費用をかけない

でほしい」59・1%と「家族だけで

送つてほしい」51・1%の2つの回

答が共に過半数を超えています。Q

10では「家族だけで」は47・7%と

少し減少していますが有意な差ではなく、回答者も少々ぶれて回答して

いることがわかります。

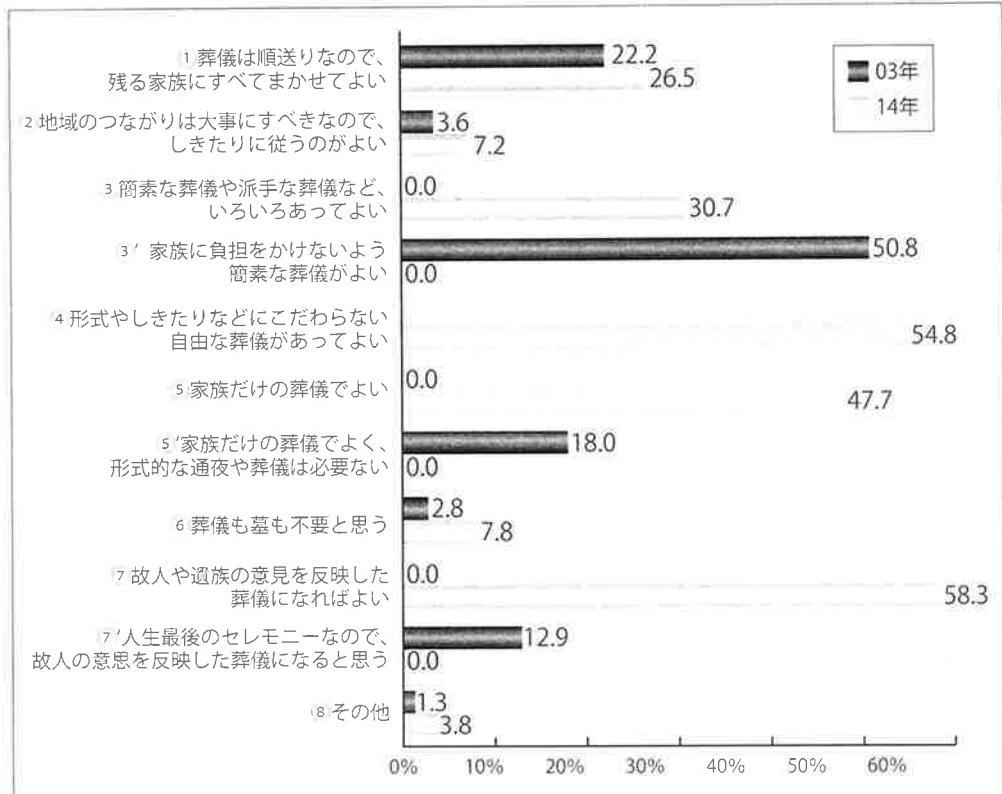
いくつか注目すべき意見を自由記述から例示します。

・私は生前も子どもたちに世話をかけてしまうと思うので、死後は残された人々をわざわすなども不要にしたい。直葬で十分だと思っています。

・預け置きの葬儀でなければよ

く。預け置きの葬儀でなければよ

図11 今後の葬儀のあり方（複数回答）



来ていただけ相手の方にも負担をかけることになるので、家族の立場が現役であれば、知らるべき人も多くなり、それなりの葬儀が必要なのかもしない。私自身は63歳だが、友人、知人だけで送ればよいと思う。故人

も少ないので、家族だけで見送つてもらえばそれで十分だと考えていて。

- ・難しいです。実際には自分がしないので、希望は伝えておきたいが、それを実現するかどうかはどちらでもいいと思わない

と、残った人の負担になつて困りますから。

・死を軽く見るのではなく、地域の義理を無視するのではなくて、生活の変化がある中で、葬儀も時代と共に変わってきてよいと思つ。

・後継者に先立たれた私たち夫婦の考えは、日々猫の目のようになります。これといった確固たる信念が持てず困惑の日々です。とにかく1日も早く嫁いだ娘や遺された3人の孫の意見を聞かなければとは思つています。死ぬことが大変な時代になりました。

いだらうか。死者を懸ろに弔う心を表現する方法が風習として、あるいはしきたりとして続いてきたのだろう。しかし、少子化、高齢化により地域のコミュニティが成り立たなくなり、そこに葬儀の事業者による葬儀の請負がされるようになると、守られてきた風習やしきたりは少しずつ消えていくと言えるのではないだろうか。今、その過渡期にあると守らざるを得ないのではなかろうか。

## (7) 地域で受け入れられる葬儀に関する風習、しきたりについて

Q11 あなたの地域で葬儀に関しての風習やしきたりなど、守られていましたら教えてください。（地域の班組織などで行う・当番制になっているなど）

今までどおりのしきたりに則つて行うには手が足りなくなつた弔いに、葬儀社が手助けしながら、その土地で生き、暮らした故人を手厚く送るために、風習やしきたりを加味した葬儀のかたちを考える必要があるのではないかだろうか。

伝統として根強く続いてきた地域の風習の中で、最後まで続いているのが「葬儀のしきたり」なのではな

【回答】

ここは全体が自由記述から成ります。

# 葬儀に関する知識について

ここでは特に分析しないで、注目すべき回答を列挙します。

## 〈北海道〉

- 町内会の方々にお世話になる場合、本当に助かりますが、高齢になり2日間のお手伝いも大変で、葬儀社にすべてお任せする方が多くなりました。私たち夫婦もお手伝いには出ておりました。

## 〈東北〉

- 火葬の後、通夜前、寺の入口から寺までいろいろな飾り物を持つて列をつくり、鉦を鳴らして広場を周回する。

- 昔から住む人々の間では講が今でも続いているが、新しい住人（当家も）は入れず、班（隣組）で少しの手伝いのみあり。班の人が手伝う。香典（千円）でお返しなし（ムラクヤミと呼んでいます）。

## 〈関東A：茨城、栃木、群馬、千葉〉

- 地域の班組織内の手伝いをすることになっているが、最近は親族内の人だけいると辞退され

ない。

・穴掘り講、お骨を埋葬する時に当番の人が墓の穴を掘る。ただし、今はほとんど墓石屋さんが墓石をすらしお骨を入れて修復してくれる。

## 〈中部A：新潟、富山、石川、福井〉

・住んでいる町内の中の班（15～16軒）には、葬儀のお知らせをし、お通夜（通夜振る舞いに参加）と告別式には、時間に合わせて葬儀社の車が送迎してくれます。

・地域のしきたりを知っていた高齢者がほとんど亡くなり、介護状態で何が風習なのか、しきたりなんかを聞くべき人がいない状況。葬儀も自宅以外で行う家が多くなり、亡くなつたこともわからぬことが増えている。

・告別式を過ぎたら直ぐ納骨しますので、寺、檀家で野辺送りをします。

・田舎なので世話人さんを立てて行う。初七日まで葬儀に呼ばれない家は、「とむらい」で2千円持参する。

・新興住宅なので古いしきたり等はない。公民館も数年前から用途が違うと使えなくなつた。宗教の風習は、葬儀社が教えてくれる（おおまかなところ）。

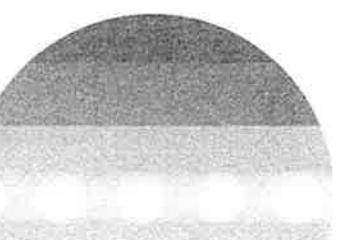
## 〈近畿〉

・地域の世話人がすべて取り仕切っている。

・香典返しや七日毎のお参りもだんだんと簡素化され、また死亡時、葬儀の折りに「鐘」を鳴らすお知らせをしていたが、葬

・最近、親類で式を行うので、地域班の手伝いを辞退したお宅があつたが、結果は班の人全員、通夜か葬儀のどちらかに参列。

私も家族だけで葬儀を行いたいと思っているので、素直に辞退を受け入れない地域に複雑な思いをもつた。



## 〈中部B：埼玉、東京、神奈川〉

・葬儀には参列するが、香典は町内会から1万円、各世帯千円、お返しは辞退する。組内の手伝いはなし。

・当地方の町村部はまだしきたりが強く残っているところが多い。隣の市は葬儀の引き出物が高価で自分流の考えでは、恥をかくことがあった。

・本来ならば式の決まり次第当番制の町内会長に相談し役割分担をお願いする。最近では近親者のみの葬儀後、町内に回覧板で報知される。又は新聞のお知らせ欄で知る。

・マンション住まい。32年ほど前は10軒が手伝っていたが、今は集会所を使う際は自治会が手伝うがそれも減っている。葬儀後のお知らせが増えている。

## 〈中部B：山梨、長野、岐阜、静岡、愛知〉

・ノイバーや葬儀中の盗難

儀社での見送りが増え、それもなくなりました。地域の中での人間関係が薄らいでいる。誰かが亡くなつても何か月も知らされないことも多くある。

がすべてのお世話をするのが普通だつたが、最近は葬儀社がすべてのことを代行するようになります。

### 〈中国〉

- ・古くからの農家と新しい住宅が混在しているので、班から手助けに出る葬儀もそうでない形も各家庭によって違う。

- ・葬儀社が数社あり、家や地域の人たちに迷惑かけることもあります。回覧板で案内を受けるようになり、風習、しきたりはなくなっている。以前は班の葬儀は仕事を休んで通夜振る舞いから受付をしていたようだが、家で行うこともなく手がかからないです。

### 〈四国〉

- ・親族よりも町内会が先立ちでことがあります。山間の地でわずか11軒の集落ですから親族以上に信頼しています。毎年町内会長が輪番で先立ちとなって運営します。
- ・地域の班単位で鉢を叩いてまわる。
- ・以前は班単位で近所の人たち

・葬儀の手順は、亡くなつた家族の人、近所、隣組へ知らせる。隣組は市役所、寺へ連絡。葬儀の受付も隣組が行う。

- ・20年前近く前に引っ越してきたら自宅葬をする家が多く、当番制で手伝いを強制された。仕事も休めないし、いろいろ面倒なことが多く、町内会をやめました。以後、近所の付き合いはありません。
- ・3千軒の団地。あつちこつちから来ている人たちなので別にしきたりなどなく、いろいろな葬儀があり、キリスト教、仏教、家族葬など…。

Q12 あなたの地域で、葬儀に関しての改善例などがありましたら教えてください。

### 【回答】

多くの書き込みのうち、改善例としてあげられたのが、葬儀社が入ることによって、まず式場、セレモニーホールでの葬儀によって、隣近所総出の葬儀から解放されたことがあげられている。手伝いの負担が大き

かつたことは確かであろう。また、香典の額や、お返し品の取り決めによって負担が減つているとの報告もある。

一方、家族のみで葬儀をすませ、亡くなられたことを数か月も知らないで過ごすこともあります。さびしい気持ちを起こさせる方法が簡便な方法、簡素化したお別れ、ちがするとの書き込みもある。

「改善」という言葉に凝縮されてよることによる必要があるのではないか。改善による心豊かなお別れ、故人の心が引き継がれるお別れになるよう願いたい。

かつたことは確かであろう。また、香典の額や、お返し品の取り決めによって負担が減つているとの報告もある。

## 消費者サービスのご提案

### 《Booklet》④



### 改訂『大切な涙』

近藤浩子・鷹見有紀子著

「涙を流すのは、  
心が弱いからでは  
ありません」

悲しみにあるご遺族へ  
心に響く珠玉のことば

B6判32ページ 本体190円

大切な涙

表現文化社

#### Booklet④ 價格表

冊 数	購入単位	本 体	送 料	名入れ料(税別)
100冊以上	100冊	169円	実 費	名入れなし
500冊以上	100冊	148円	無 料	30,000円
1,000冊以上	100冊	116円	無 料	30,000円

\*3,000冊以上はご相談ください。\*名入れは会社名等を表4に印刷するものです。

●お問い合わせは 表現文化社 〒160-0016 東京都新宿区信濃町10 中山ビル2階  
TEL 03-3341-4301 FAX 03-3341-4302

## 【分析】

地域から葬祭業者へ、自宅から斎場（葬儀会館）へ、近所総出の葬儀から家族葬へ：【回答】でも言及していますが、ある人たちにとつては改善が、ある人たちにとつては寂しい人間関係の希薄化と受け取られるようになっています。

葬式というある意味で面倒くさい作業が合理化されていく、かつて新生活運動があり、「割り切り」が「近代化」と理解された時代がありました。今や葬儀は近所の人が死亡した事実さえ伏せられかねない時代となりましたが、それが親戚にも伏せられ、もしかしたら家族内ですら伏せられることも現実的です。

## 【日本消費者協会によるまとめ】

第10回の葬儀アンケートを概観すると、葬儀に対する故人の遺志の尊重の気持ちが大きくなっています。葬儀について、何も考えずに後に残った家族にお任せで死ねるという時代ではなくなっています。送られる

## まとめ

側として、自分は何を準備しておくかを真剣に考へている人が多くなっています。今、エンディングプランを作り、葬儀社のイベントに出向く人たちの多さを考えると、葬儀社は一層の恵をだし、人生最後のお別れの場にふさわしく、地域のしきたりも加味

（アンケート結果は以上）

【分析——まとめ】

かつて人の死は親族、地域といつても15軒前後の講、班、組内と呼ばれたものと寺との関係にありました。が、高度経済成長のもたらした地域から都市へという民族大移動による地域社会の衰退、高齢化によってその基盤が崩れつつあります。

葬式も自宅から斎場（葬儀会館）へと変わり、地域習俗、風習、しきたりの下にあつたものから、多様という個化が進み、身近であつた葬式が縁遠い、わからぬものへとなり、消費者は葬式について素人であることが当然のこととなりました。

葬祭業者は消費者からの信頼を得るところまでいっていないように思われます。これまでの立場で、これから葬儀について考える材料となれば幸いです。

こうした状況にあり、葬祭業者と消費者の間に見える形でのルールづくりが求められているように思われます。

今回分析を終えるにあたり、改めて継続して調査にあたられた日本消費者協会に感謝と敬意を表します。

この調査がなければ、葬式というものがわれわれにとってどういう位置にあるかが不明なものであり、課題が見えないものであつたことは

し、その人らしい葬儀を提案していく必要があるのではないか。一方、消費者も事前に情報収集するのももちろんのこと、情報の良し悪しを見極める目をもち、自分の考え方をまとめておく必要があるでしょう。また、葬儀後の感想で、葬儀社、そして担当者との信頼関係が結果として葬儀の納得感につながることを考えると、確かな業者選びが大事と言えるでしょう。

では葬式、棺、祭壇でしたが、今やかつての親戚、地域に代わる遺族を中心ともにサポートする機能へと変化しています。

葬祭業者という家族にとつては他の葬祭業者と遺族の関係は、サービス提供業者と消費者という面をもつことになりましたが、そうした面では葬祭業者は消費者からの信頼を得るところまでいっていないように思われます。これまでの立場で、これから葬儀について考える材料となれば幸いです。

しかし宗教者はほとんど関心の外に置かれ、布施という支出面だけでも注目されるのはいかがかな、と思います。葬式に僧侶のお経はまだ求められていますが、それ以上の期待の声も聞かれないのは寂しいことです。

さて継続して調査にあたられた日本消費者協会に感謝と敬意を表します。